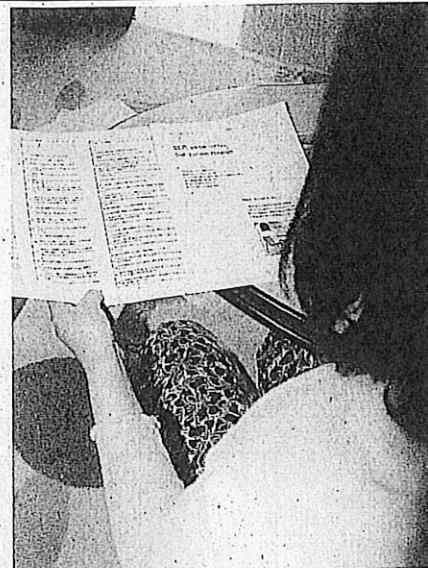


面前DV 心の痛手 成人後も 経験者「物音、毎日ビクビク」



警察から児童相談所への通告が急増している「面前DV（ダメスティック・バイオレンス）」。幼い頃に心に傷を負った人は、様々な困難と向き合いながら、周囲に支えられて、懸命に立ち上がりようとしている。（後田ひろえ、写真も、本文記事上）

■死ばかり考え
「物音にもビクビクして
いた毎日。死ぬことしか考
えていませんでした」

福岡県内に住む会社員女性（32）は、物心ついた時から、父の母に対する暴力におびえ続けていた。会社員だった父は、毎日のようにパチンコに行き、負けると酒を飲んで暴れ

幼い頃、父の母に対するDVを目の当たりにしてきた女性。支援プログラムの資料を手に、「子供の心の傷に気づいて」と語る（福岡県内で）

た。「貴様！」とどなり声を上げて母を殴ったり、食器を投げて割つたりした。母はされるがまま、幼かっただ女性は自室で布団に潜り込んで、じっと耐えていた。近くの祖父母の家へ母とともに避難したこともあり、ランドセルだけを持つて自宅を飛び出したことを説いていた。

女性らの自立を支援する一般社団法人「WANA関西」（大阪市）の講演会に足を運んだ。代表理事の藤木美奈子さんは、幼少期にDVを目撃することがトラウマとなり、生きづらさにつながることを伝えていた。「私のことだ」。会場で配られたアンケート用紙に、それまで胸の奥にしまい込んでいた

「DVを目撃した子供が心にどれだけ深刻な傷を負うのか、多くの人に気づいてほしい」。女性はそう訴える。

「面前DV」の記事へのご意見をお寄せください。
（メール：ssyaka@omuri.com、ファックス：0092・715・1550）

友田教授は「面前DVの被害にさらされている子供たちに社会全体で目を向けて、支援機関につなごうと努力することが大切だ」と強調する。

日本工業大学

新学部学科説明会/オープン
キヤンパス
7/15㈯11時から

対人関係築く力に影響

米ハーバード大と共同で、面前DVが脳に与える影響を研究していた「福井大子ども」の発達研

究センター」の友田明美教授（小児発達学）によると、幼少期に親同士のDVを目にした人は、脳の視覚

野が小さくなる傾向にある

という。

外部からのストレスに耐えられるよう、脳が視覚を通して情報量を減らそうとすることが原因とみられ、その影響で、面前DVの被害者は、他人の表情を理解しづらくなり、対人関係がうまいかなくなるなどの課題を抱えやすくなるとい

う。佐賀県警佐賀北署の発表によると、男性は福岡市西

全焼の車に遺体

佐賀・三瀬村の国道25日午前0時10分頃、佐賀市三瀬村^中の国道26号で、乗用車が燃えてい

るのを通行人が見つけ、10番した。車は全焼し、助手席付近から1人の遺体が見つかり、車の外で、運転していたとみられる男性が両足にやけどの負った状態で発見された。男性は佐賀市内の病院に入院した

が、命に別条はないという。